

戦争法案廃案 学者150人会見

民主主義破壊に抗議



「戦争法案は違憲」「廃案にせよ」と声をあげる学者たち＝20日、東京都千代田区

アピール賛同 1万1218人

幅広い分野の学者・研究者でつくる「安全保障関連法案に反対する学者の会」が20日、東京都千代田区の学士会館で記者会見しました。150人を超える学者・研究者が参加し、呼びかけ人や賛同者が意見を述べ、衆院での強行採決に抗議し、廃案に向け、さらに国会を包囲していきたくいと決意を語りました。

↓関連⑩面

条は歴然として生き続けてきた。しかし安倍首相はそれをなし崩しにしようとしている」と訴えました。

国際基督教大学教授の川本隆史さんは、「憲法はピンチかもしれないが、ピンチは逆にチャンスであると自分を奮い立たせて動いていきたい」と表明。東京大学名誉教授の上野千鶴子さんは、「いま学者と学生が世代を超え、ともにたたかっています。手遅れにならないうちに行動しなければならぬ」と語りました。

発起人・事務局代表の佐藤学氏（学習院大学教授）が、アピールに学者・研究者1万1218人、市民2万2779人の3万4千人近い賛同が寄せられ、急速に運動が盛り上がっていることを報告。呼びかけ人の広渡清吾氏（専修大学教授、日本学術会議前会長）が「立憲主義と民主主義の破壊」とする「抗議声明」を読み上げ、確認しました。

ノーベル賞受賞者で京都大学名誉教授の益川敏英氏は、戦後の日本の歴史と国民のたたかいに触れつつ、「その中であっても憲法9条を守るたたかいは、国際的責務。世界に約束したことを守ることを世界に示していかう」と呼びかけ、全員で「廃案まで頑張るぞ」と唱和しました。

7/21
西 報